

教祖140年祭
三年千日の
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」

◇4月18日教祖誕生祭、19日婦人会総会◇

みんな一緒におちばがえり

◇全教一斉ひのきしんデー◇

4月29日（火・祝）日々お借りしている身体に感謝して

家族でひのきしんに汗を流しましょう！！

各支部の集合場所などの詳細は下記QRコードを
読み取って頂き、ご確認ください。



大教会のHP がご覧になれます！

月報には掲載されない写真もいっぱいです！

ぜひ一度ご覧下さい♪

網走月報

発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会三月月次祭

大教会3月の月次祭は、12
日午前9時30分から大教会長
祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様
の御守護に御礼申し上げた後、
「私共教会長を始め、ようば
く・信者一同は、仕上げの年
に諭達の実動に力を入れ、一

月より二月にかけ一万一千を
超える実動をさせて頂きまし
たこと厚く御礼申し上げます。
三月も本年の心定め達成の理
作りとして、諭達の実動を全
力で行い組んでまいる所存で
ございます」と奏上した。

私たちを受け入れて下さった
教会の方たちは、損壊して
いる自分の教会も後回しにし
て、他の被災された方のため
にひのきしんに回られ、神様
は私たちが乗り越えられない
試練はお与えくだされないは
ずだから、先を楽しみにこの
節を乗り越えてみせますと勇
んでおられる姿を見た時に、
事あるごとに教会で私は「こ
の年祭活動中は、教祖のひな
がたを少しでも感じさせて頂
き、一歩でも成人させて頂き
ましょう！」とお伝えしてい
たのにも関わらず、伝えてい
る自分が全く成人もできてい
ない、全く動けてもいないこ
とに本当に申し訳ない気持ち
でいっぱいになりました。

神殿講話

桐谷善広准役員



神殿講話全文

昨年は元旦から能登の大地
震にはじまり、年頭のご挨拶
で真柱様は「教祖の教えを信
じ、教祖の道を通らせて頂く
お互いの、心の成人の鈍さに
対する厳しいお仕込みである
と思うのであります。」とお
話下さいました。

そして、九月には記録的豪
雨により、またもや能登が甚

大な被害に見舞われるという、
非常に厳しい姿をお見せ頂き、
本部の秋季大祭で真柱様は
「地震と大雨という、形は違
えど、同じ所に二度も厳しい
姿を見せられた。私は、これ
は私たちの年祭に対する取り
組みが、思召にお応えするに
はまだまだだということなの
だと思ったのであります。」
とお話下さいました。

能登の方々のことを思うと、
一年に二度も災害に見舞われ、
ご家族を亡くされた方や、住
んでいる家を失った方たちが、
どんな思いで毎日を送ってい
るのだらうと、本当にいたた
まれない気持ちになりました。

このままでは年祭活動を何
もしないまま、ほとんど成人
できないまま終わってしまう、
そう思って焦りを感じていた
時、昨年十一月に、あること
がきっかけで大教会長様にこ

おつとめやひのきしんはた
しかに他の実動に比べたら一
人で空いてる時間にできます
し、実動し易いというのもある
と思うのですが、ただ単に
おつとめをつとめるというだ
けではないと思うのです。
　　諭達にも、事情身上で悩む
人には、親身に寄り添い、お
つとめで治まりを願いとあり
ますから、願う相手がいると
思うのであります。そこを考
えますと、おつとめが一番回
数が多というのは、皆さん
が誰かのために思って、誰か
のたすかりを願って勤めるの
ですから、これは教祖もお喜
び下さると思うのであります。
　　教祖が二十五年先の命を縮
めて現身をおかくしになられ
たのは、おつとめの急き込み
であります。今なお、教祖は
ご存命でお働き下さり、お導
き下されておりますが、定命
を縮めてまでたすけ一条にお
働き下さる親心にお応えさせ
て頂けるのは、私たちがおつ
とめを一生懸命勤めさせて頂
くことではないかと思うので
あります。

　　十年前の年祭活動中に、あ
る教会の会長さんが、関西空
港から樺本までのリムジンバ
スの中で、出発してからバス
を降りるまで何回もおつとめ
をつとめておられたのです。
何か心定めをされていたのだ
と思います。周りの何も知
らない方からすると異様な光
景だったと思うのであります。
　　その会長さんからしたら、
どなたかのたすかりを願って
勤めておられたのでしょうか
から、周りの目などたぶん気に
ならなかったのだと思います。
後々お会いした時にその時の
ことをお聞きしたら、一緒に
バスに乗ってたのかい！恥ず
かしいなあと思つてましたが、
続けて、移動日ってなかなか
おつとめする時間ないからね、
場所なんて選んでられないよ
と笑つておられました。

　　なかなかこの会長さんのよ
うにバスの中でおつとめをさ
せて頂くというのはハードル
が高いと思いますが、おつと
めは教会で、また神様の前で
しなくてはならないというこ
とはないと思います。おつと
めをしたいと思えばいつでも
どこでもさせて頂けるのです。
「人を救ける心は真の誠一つ

の理で、救ける理が救かると
いう」とおききさげにもあり
ますように、見返りを考えず、
真実を尽くして人を救けたい
という心が誠の中の誠で、人
を救ける心で尽くしければ、
神様にお受け取り頂き、自ら
も救かることになると思え
て下さっております。ですから、
やはり自分が救かりたい救か
りたいではダメなのです。ど
うでも、人を救けたい、救か
つてもらいたい、という心に
さへなつていけば、たとえ自
分が病気で苦しい時があつても
神様はきっとご守護下さると
思うのであります。

　　それにはやはりおつとめと
おさづけしかないと思います。
　　この年祭活動期間中は、た
すける旬、たすかる旬ともお
聞かせ頂きます。一人でも多
くの方がご守護頂けるように
一回でも多くおつとめを勤め
させて頂き、おさづけを取り
次がせて頂きましょう。
　　そして、もう一つ忘れては
いけないのは、大教会の三年
千日の活動方針である「教祖
のひながたを目標に 全教会
心定めの達成」であります。
　　毎年各教会で掲げています

が、私自身のことを申します
と、頭には常にどなたかと
思つてはいるものの、結局毎
年努力目標の一つみたくに
なつてしまい、達成できずに
終わつてしまつてるのが現
実であります。
　　どこかで心定めが達成でき
るかどうかは神様のご守護次
第と思つているところもある
と思います。もちろん何かし
らのご守護を頂戴しようと思
えば、神様にお働き頂くより
ほかに道はありませんが、自
分から積極的に声かけをした
り、働きかけも十分にしてい
ないのに、ご守護を期待する
こと自体、本当に成人が足り
なく申し訳ない限りでありま
す。
　　しかし、先にもお話ししま
した、今年一年は実動の心定
め達成に向けて、陽光も一丸
となつて動き出しました。も
ちろん、大教会全体としまし
ても、二ヶ月で三万件を超え
ているわけですから、皆さん
が一生懸命動きだしているの
であります。
　　この実動十万件に向かつて
勇んでつとめさせて頂けば、
教会の心定めの達成や、別席

相談させて頂き、年祭活動仕
上げの年から夫婦で大教会に
伏せ込ませて頂くことになり
ました。
　　一つの教会を預らせて頂
く会長夫婦としては、本当に
身勝手ですが、まな行動では
あると思いますが、教会を
守つて下さる前会長夫妻や後
押しをして下さる信者さん方
がいて下さるお陰でこうして
伏せ込ませて頂けるのは、本
当にありがたいなと思わせて
頂いております。
　　残り一年、どう成人させて
頂くかによつて、私たち自身
も、そして陽光としてもこれ
からの道筋が決まつてくると
思うのであります。
　　そのためにも、まずはしつ
かりと大教会で伏せ込ませて
頂き、年祭に向かつて徳積み
をさせて頂きたいと思いま
す。
　　さて、今年の一月十二日よ
り、諭達の実動十万件を目指
すという活動がスタートし、
すでに皆さまも実動されてい
ることと思います。

　　陽光も一月五日にご巡教頂
き、世話人先生から諭達の内
容の振り返り、また、実動の
内容についてお話頂きました。
　　ちょうど正月休みの明け
前でしたので、いつもの月よ
り大勢参拝に来て下さり、先
生のお話を聞いて、おつとめ
やひのきしんなら何とかでき
そうね、などと信者さんたち
もお話をされながら、私も最
後に、年祭に向けて一回でも
多く実動させて頂きましょ
うと締めくくらせて頂きました。
たぶん、親神様・教祖は見抜
き見通しだったのでしょう。
このままいけば、またなんと
なく実動の回数を重ねて、あ
る程度頑張りましたで終わ
るだろうなということが見え
ていたのだと思います。
　　実は正月早々、母が台所の
床を拭いている時に、手を滑
らせて床に上半身を打ち付け
てしまい、右肩の骨折と、あ
ばらにヒビが入るという身上
を頂きました。

　　お恥ずかしい話、うちは身
上を頂いても、なぜこの身上
を見せて頂いたのだろう、こ
の身上を通して神様は何を伝
えたいのだろうというよう
な話が家族ではなかなかでき
ません。
　　そのようなことも察してな
のかは分かりませんが、大教

会長様が札幌の直轄の信者さ
んまわりの途中で陽光へ寄つ
て下さいました。
　　色々とお話下さる中で、前
会長もこの年祭活動期間中に
手や足の筋肉が減つていく難
病の身上を頂き、そして今回
の母の骨折のことを考えると、
真柱様も「この三年千日の間
は動かさせて頂くことが大切」
とお話下されているのに、動
けなくなつていくということ
をよくよく思案して頂きたい
と思ひますとお話下され、続
いて、これは陽光の事情とし
てしつかり受け止めて、この
諭達の実動十万件を陽光とし
て件数を定めて、信者さんと
一手一つとなつて、ようばく
の使命であるこの実動を一生
懸命させて頂きませんかとお
提案下されました。
　　さらに続いて、私の方を見
られ、会長として何件の心定
めをしようかと仰られ、私も
突然でありましたし、どのぐ
らいを定めて良いのかも分か
らなかつたので、正直言つて、
一万件が多いのか少ないのか
も良く分かりませんとお返事
をしました。

　　すると、では今、口に出し
た一万件を定めようかと仰ら
れ、あまりその時はピンとき
ていなかったのですが、一万
件の実動を心定めますとお
返事してしまいました。その
後、前会長夫妻におさづけを
取り次いで下さり、陽光をお
発ちになつたのですが、それ
から冷静になつて考えてみる
と、勢いで定めてしまつたも
の、さあどうやつて一万件
を達成させて頂こうかという
ことで頭がいっぱいになりま
した。
　　これは本当に信者さんたち
と一手一つとなつて動かして
頂かなければこの数字は達成
できないと思ひ、すぐに信者
さんたちに事の成り行きをお
話し、何とか一万件に向けて
一緒に実動して頂きたいとお
願ひさせて頂きました。する
と、ありがたいことに、皆さ
んが常に意識して実動して下
さつたお陰で、この二ヶ月で
四千二百四十二件の実動をさ
せて頂くことができました。
　　この二年間、信者さんたち
も年祭活動というものに対し
ての動き方もよく分からな
かつたと思うのであります。が、
この実動十万件のお陰で、少

しでも年祭というものに心を
向けることができていたので
はないかと思わせて頂きます。
私自身も、大教会長様がお話
下された、動かなくてはなら
ない時に動けなくなつてきて
いることをよくよく思案して
というお言葉がずっと頭に
残つており、しばらく考えて
いたのですが、結局は会長で
ある私の動きが足りないから
周りの動きを鈍くして下さつ
ているのだなということに気
づかせて頂き、神様にお詫び
させて頂きました。
　　まだまだ動けていないこと
も多々ありますし、会長とし
ての務めを果たせていないこ
ともあるのですが、この心定
めた一万件をどうでも達成さ
せて頂きたいという強い思い
を持つて実動させて頂くこと
によつて、成人させて頂ける
きっかけをお与下さつたり、
様々なご守護も頂けるよう
になると思うのです。
　　今日で実動させて頂き二カ
月が経ちますが、先日集計を
させて頂いた時に気づいたこ
とがありました。六つの実動
項目がある中で、一番回数が
多かつたのがおつとめであり



●直属アワーに引き続き、婦人会では女子青年を対象に「こかん様に続く会」をさせて頂いた。

▼参加者 3名



委員長 徳永慎二

特に、毎月第3日曜日につとめる「まなびづとめ」には、20ノ30名が集い、一手一つに陽気におつとめをつとめさせて頂いています。その後の直会は楽しい情報交換の場です。

関西地区ようき会

トピックス

ようぼく誕生を祝う会に参加して

おさづけの理を戴いてから、二ヶ月が経ちました。今の気持ちには、ほっとした安心感に包まれています。それは、父の願いを叶えることができたからです。三年前、父から「別席はあと一席だから、三年千日の間に行ってほしい」と言われ、当時の私は、その言葉を聞き流しました。私は、十数年前に沖縄に移住して以来、天理教から離れると決めていたからです。しかし、それから三年後のある日、ふと父の言葉を思い出したのです。特別なきっかけがあったわけではなく、なぜ思い出したのかも分かりません。親孝行のために行くしかないと思

斯道会別席団参&万博観光のご案内



万博のテーマ：いのち輝く未来社会のデザイン

2025年5月25日（日曜日）

13,000円

<入場料+詰所発着バス代>

■万博観光募集定員 27名

■スケジュール 網走詰所出発（07:30）

自由見学+自由昼食

網走詰所帰着（17:30）

■申込締切 2025年5月8日

～ 5月斯道会別席団参行事 ～

5月25日 11時30分 本部お祝いづとめ（観光に参加しない方）

終了後、おさづけの取次ぎ

12時～13時30分 別席受付

5月26日 09時～ 本部5月月次祭

13時～14時 別席受付

◇申し込み・お問合せ 教祖140年祭網走おたすけ委員会 委員長 細木善信 090-2072-6130

仕上げの年
諭達の実動十万件
年祭当日をうれしい心で迎えよう

実動件数
30,285件
(3月11日現在)

育成部便り

●「春の学生おぢばがえり」が3月28日開催された。前日からの雨模様で、殿内での開催となったが、式典では真柱様のお言葉を、表統領・中田善亮先生が代読下された。

式典終了後、詰所二階大広間で直属アワーが行われ、大教会長のお話を聞かせて頂き、その後昼食に焼肉を頂いた。

▼参加者 学生6名

育成者1名

ようき会通信

新体制のもと、詰所を拠点に活動している関西地区ようき会では、毎月の「詰所まなびづとめ」参拝や大教会おぢば団参に合わせた詰所ひのきしん、本部神殿お供えのお餅つきひのきしんなど、主任先生・教養掛・担当教会長のご指導を頂きながら活動しています。

特に、毎月第3日曜日につとめる「まなびづとめ」には、20ノ30名が集い、一手一つに陽気におつとめをつとめさせて頂いています。その後の直会は楽しい情報交換の場です。

トピックス

ようぼく誕生を祝う会に参加して

おさづけの理を戴いてから、二ヶ月が経ちました。今の気持ちには、ほっとした安心感に包まれています。それは、父の願いを叶えることができたからです。三年前、父から「別席はあと一席だから、三年千日の間に行ってほしい」と言われ、当時の私は、その言葉を聞き流しました。私は、十数年前に沖縄に移住して以来、天理教から離れると決めていたからです。しかし、それから三年後のある日、ふと父の言葉を思い出したのです。特別なきっかけがあったわけではなく、なぜ思い出したのかも分かりません。親孝行のために行くしかないと思

新職務分担 育成部挨拶

婦人会

日々は婦人会活動の上にお力添えを賜り誠に有難う御座います。

年頭の婦人会長様のご挨拶の中で真柱様のお言葉に触れられ、「親神様の思召しとの大きな開きがある」というお言葉に対して、「お言葉を受けて感想を述べるだけでなく、どの様にして動くのかを明確にし、開きとはどういう事なのか。そこをしっかりと練りあつて頂きたい」と仰られました。我々、婦人会は有り難い事に、毎年活動方針をお打ち出し頂いております。

「教祖140年祭に向かって 育つ努力、育てる丹精に徹しよう」



婦人会支部長
三幣順子



青年会委員長
村井実

教祖140年祭まで残り一年となり、この旬に任命頂いたことはとてもありがたいことだと思います。

これまでの歴代委員長の後を受け継ぎ、網走分会を発展させられるように精一杯努めさせていただきます。

まだまだ未熟者ではございますが、青年会を盛り上げてまいりますので皆様のお力添えをお願い致します。

青年会

●元なる思召を伝え広めよ
●老いも若きもおたすけの喜びを味わおう

まずは、活動方針に沿った動きをさせてもらい、年祭仕上げの年を盛り上げていきたいと思ひますので、何卒、宜しくお願い致します。

少年会

えの程よろしくお願ひ申し上げます。

この度、少年会網走団の団長を拝命し、身に余る光栄に感じると共に、その重責に身の引き締まる思ひです。歴代団長よりの育成の精神を引き継ぎ、不撓不屈の努力を積み重ねてまいりたいと存じます。

現在は、大教会、詰所と多くの少年会員が出入りし、大変な賑わいをお見せ頂いております。そうした時旬に、教祖からお教え頂いた御教えを分かりやすく、しっかりと伝え、親心にお応えしてまいりたいと強く思う次第です。

稿本教祖伝逸話篇に、「分からん子供が分からんやない。親の教が届かんのや。親の教が、隅々まで届いたなら、子供の成人も分かる



少年会団長
三幣敦志

学生担当委員会

学生担当委員会の役割は、学生が様々な活動をしていく上でのサポート役や、信仰者の先輩として良き手本を示していくことだと思います。

本部学生担当委員会の基本方針「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう」を常に念頭に置き、網走学生



学生担当委員会委員長
桐谷善宏

立教188年 人のご守護 心定め			
初席者	ようぼく	修養科修習者	教人
51名	23名	18名	6名
成果 (3月末現在)			
4名	3名	2名	0名

会に繋がる学生が、信仰する喜びや楽しさを少しでも感じてもらえるように、おぢばで開催される学生生徒修養会や春の学生おぢばがえり、また季節ごとの学生ひのきしんに一人でも多くの学生に参加を促していきたいと思ひます。

なかなか最初の一步を踏み出すには勇気があることも少しかもしれませんが、私たちが育成者が声を掛け続け、そつと背中を押してあげることが大切ではないかと思ひます。どうぞお力をお貸し下さい。よろしくお願い致します。

動 静

この日に合わせて来てくれたと聞き、驚きと同時に、嬉しさと感謝で胸がいっぱいになりました。また、懐かしい方々にもお会いでき、まるで時が戻ったような感覚になりました。さらに、私の知らないところで、多くの方が支えてくださっていたことを後で知りました。おさづけの理を戴くことが、決して簡単なことではないと実感しました。

お祝いして下さったこと、

徳元分教会 宮内里美

▼直轄所属・米田昌子の霊様の50日祭、合祀祭が3月5日、釧路市の自宅にて瀬川定自・直轄世話人祭主のもと執行された。

ようぼく誕生を祝う会（実践講習会）を開いて下さったこと、その他にもさまざまな準備をして下さったことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

3月人のご守護

○初席者

陽光 鈴木 陽斗

○中席者

直轄 浅田 心優

直轄 瀬川 ひかる

網次 安田 桃花

○修養科修了者

釧厚 在原 建城

○教会長資格検定講習修了

誠陽 澤田 佐知

○別席傍聴願

(1名)

育英会寄付者

樋口 寧（母葬儀）

三幣正志（次女卒園）

大教会3月の動き

1日 役員会会議

2日 みそか会。縦の伝道

3日 直轄世話人会

8日 おはなし食堂

9日 縦の伝道日。網走支

10日 部例会会場

11日 役員会会議

12日 教祖140年祭網走おた

すけ委員会会議。育

成部部会

月次祭。役員会会議。

連絡会。網走ようき
会役員会
春季霊祭。修養科事
前研修会よろこびセ
ミナー（15日まで）
15日 会長、札幌方面信者
まわり（16日まで）
16日 縦の伝道日
18日 網走支部婦人会例会
20日 少年会総会
21日 会長、札幌方面信者
まわり（22日まで）
22日 会長、おどろがえり。
23日 詰所23会。縦の伝道
24日 会長、本部神殿奉仕
つとめる
26日 本部月次祭遙拝。会
長、教区主事会出席。
27日 結城和広役員、本部
神殿奉仕つとめる
28日 会長、本部春季霊祭
参拝、かなめ会出席。
29日 藤山重善役員、本部
神殿奉仕つとめる
学生会直属アワー
（詰所）。こかん様に
続く会（詰所）
大教会一斉活動日。
網走地区ようき会親
睦会会場

春季霊祭

30日 直轄世話人会
31日 みそか会

春季霊祭は3月13日午前10
時より、神殿の儀が行われ、
てをどり終了後、祖霊殿の儀
が執行された。

てをどり		前 半		後 半	
大教会長	清水 信喜	細木 善信	瀬川 定自	三幣 正志	遠藤 浩二
山崎 萬代	眞壁 香織	大教会長夫人	三幣美代子	瀬川とく江	桐谷沙也加
栗林 徳正	在原 道彌	青山 正博	瀬川 陽一	小針 敏文	田中 繁
瀨川 定自	新川 正美	眞明	拍子木	結城 和広	遠藤 明広
三幣 敦志	奥野 直治	藤山 重善	清水 信喜	小松 篤志	桐谷 善広
栗林 直美	新川千穂子	菅原 真弓	三味線	藤山 眞理	三幣 有子
胡 弓	瀬川 祐子	菅原 眞弓	祭主	大教会長	指図方
細木 善信	奥野 篤志	遠藤 浩二	司 会	新川 正美	賛 者

立教188(令和7)年人のご守護成果表（3月末現在）

教 会 名	初席	中席	ようぼく	修 卒	教 人	婦参者		教 会 名	初席	中席	ようぼく	修 卒	教 人	婦参者	
						当月	累計							当月	累計
直 轄	1	3				4	16	誠 央						1	4
美 幌							2	常 道						1	1
女 満						3	14	徳 道						8	12
斜 里							0	満 金	1						2
釧 厚				1		4	7	網 安							0
武 士						1	3	オ ホーク							3
常 呂						17	23	網 徳							0
旭 網						1	4	栗 沢	6	1	1		1	1	6
御 料		2	1				3	徳 元	1	1					3
東 藻							0	網 盛							1
陽 光	1					5	7	網 新						2	6
呼 人						1	3	網 葉						1	0
誠 陽							1	網 陽						1	2
網 栄							0	誠 網						1	8
實 東						1	6	網 次	1	1					0
東 網	1						6	網 昇							2
宗 稚						1	3	勇 走						1	4
詰 所															
初 席						修 卒		教 人		婦参者					
当月		成果		当月		成果		当月		成果		当月		成果	
1		4		3		14		3		1		2		72	

3月 月次祭 3/12(水)

〈参拝者数 約90人〉							
神職講話	賛 者		指図方	扨者	祭主	祭 員	
桐谷善広	田中三郎	安田三郎	遠藤三郎	新川正人	青山正博		大教会長
胡三味琴	小太拍子	ちやんぼん	地 方	てをどり		祭 典	
弓線	鼓	木ん					
藤瀬丸井川山との道くり恵江子	三瀬丸幣川	澤田山山	栗大細林山木	藤三教大結新大	山教會長和正		座りづとめ
	敦定正忠一重	志自志和德善	徳雅善正人信	道輝夫入人	子入人長		
三桐藤幣谷山美沙也真子加理	藤遠清瀬小桐	山田水川針谷	田結小中城松	結青山遠在青	城山崎藤原山		前 半
	重眞信陽敏善	眞明喜一文	和篤繁宏志	和聖篤明道正	子子子代広彌博		
眞栗三壁林幣	新安遠三三藤	川田藤澤幣井	三瀬細幣川木	新菅瀬山清奥	川原林水野		後 半
香直有織美子	正光浩春正広	美広二雄志志	敦定善志自信	穂真祐徳知直	子弓子正幸治		